

安全データシート(SDS)

JIS Z 7253:2019
発行日:2024年3月28日

部品番号:K9436CJ 校正液 H

1. 製品及び会社情報

製品名: 校正液H (VIS:0.590)

提供者の情報

会社名: 横河電機株式会社
所在地: 〒180-8750 東京都武蔵野市中町2-9-32
電話番号: 0422-52-5649

推奨用途及び使用上の制限: UV計の校正にのみご使用ください。

2. 危険有害性の要約

GHS 分類

物理化学的危険性 区分に該当しない/分類できない

健康に対する有害性 皮膚感作性 区分1

環境に対する有害性 水生環境有害性 短期(急性) 区分1
水生環境有害性 長期(慢性) 区分1

GHS ラベル要素

絵表示



注意喚起語 警告

危険有害性情報 アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ。
長期継続的影響によって水生生物に非常に強い毒性。

注意書き[安全対策] 保護手袋を着用すること。
環境への放出を避けること。蒸気またはミストを吸入しないこと。

注意書き[応急措置] 漏出物を回収すること。汚染された衣類を脱ぎ、使用する場合には洗濯をすること。
皮膚に付着した場合: 多量の水で洗うこと。
皮膚刺激又は発しん(疹)が生じた場合: 医師の診察または手当を受けること。

注意書き[保管(貯蔵)] 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。

注意書き[廃棄] 内容物および容器を市町村条例、都道府県条例、国内法令及び国際条約の規定に従って廃棄すること。

他の危険有害性 情報なし

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別 混合物

組成及び成分情報

化学名 または一般名	CAS 番号	官報公示整理番号 (化審法・安衛法)	濃度(wt%)
含銅アゾ染料	非公開	登録済み	0.6%
水	7732-18-5	-	約 99.4%

4. 応急措置

ばく露経路による応急措置

吸入した場合

空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。呼吸していない場合、呼吸が不規則な場合、あるいは呼吸停止が起きた場合には、適切な訓練を受けた者が人工呼吸あるいは酸素吸入を行う。救助者が口移し人工呼吸で蘇生術を行うと、救助者に危険がおよぶことがある。医師の診断を受ける。必要に応じて医師に連絡する。意識がない場合、昏睡位(うつ伏せで顔をやや横向き)にして直ちに医師の診断を受けさせる。気道を開いた状態に維持する。襟、ネクタイ、ベルト、ウエストバンド等の衣類の締め付けをゆるめる。

皮膚に付着した場合

多量の水と石鹸で洗うこと。汚染された衣服および靴を脱がせる。汚染された衣服を取り除く前に汚染された衣服を水で十分に洗うか、または手袋を着用する。少なくとも15間洗い流し続ける。医師の診断を受ける。何らかの不快感や症状があるときはそれ以上の暴露を避ける。衣類は、再着用の前に洗濯する。靴は再使用前に十分に洗浄する。

眼に入った場合

すぐに多量の水で、時々上下のまぶたを持ち上げながら眼をすすぐ。コンタクトレンズの有無を確認し、着用している場合にははずす。少なくとも15間洗い流し続ける。炎症が生じた場合、医師の診断を受ける。

飲み込んだ場合

水で口を洗浄する。入れ歯をしている場合ははずす。物質を飲み込んだ場合、被災者の意識があれば少量の水を飲ませる。嘔吐すると危険なことがあるので、もし被災者の気分が悪くなったらそれ以上水を飲ませてはならない。医師の指示がない限り、吐かせてはならない。もし嘔吐が起きた場合は嘔吐物が肺に入らないように頭を低い位置に保つ。健康上有害な影響が持続または重篤な場合には医師の診断を受ける。意識がない場合、決して口からものを与えてはならない。意識がない場合、昏睡位(うつ伏せで顔をやや横向き)にして直ちに医師の診断を受けさせる。気道を開いた状態に維持する。襟、ネクタイ、ベルト、ウエストバンド等の衣類の締め付けをゆるめる。

予想される急性症状

アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ。刺激、充血。

遅発性症状の最も重要な徴候症状

情報なし

応急措置をする者の保護

人的リスクを伴うような行動、または適切な訓練を受けていない行動は行ってはならない。救助者が口移し人工呼吸で蘇生術を行うと、救助者に危険がおよぶことがある。汚染された衣服を取り除く前に汚染された衣服を水で十分に洗うか、または手袋を着用する。

医師に対する特別な注意事項

症状に対応した対処療法を行うこと。大量に摂取あるいは吸引した場合は、直ちに毒物治療の専門医に連絡する。

5. 火災時の措置

適切な消火剤

水噴霧。泡沫消火剤。粉末消火剤。乾燥砂。二酸化炭素。

使ってはならない消火剤

棒状注水は火災を拡大し、危険な場合がある。

特有の危険有害性

火災の際や加熱された場合、圧力の上昇が起こり容器が破裂することがある。有害なガスが生成されることがある。本製品は水生生物に対して有毒であり、長期にわたり持続する影響を有する。本物質によって汚染された消火用水は封じ込める必要があり、水路、下水、または排水管に放出してはならない。

特有の消火方法

火災が発生したら、すみやかに火災現場から人員を退避させ現場を隔離する。人的リスクを伴うような行動、または適切な訓練を受けていない行動は行ってはならない。

消火を行う者の保護

消火を行う者は適切な保護器具と、陽圧モードで動作するフルフェイス部分を備えた自給式の呼吸器具を装着すること。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

屋内の場合、処理が終わるまで十分に換気を行う。作業者は適切な保護具を着用(8.ばく露防止及び保護措置の項を参照)し、飛沫等の眼・皮膚への接触や蒸気の吸入を避ける。換気が不十分な場合は適切な呼吸用保護具を着用する。風上から作業して、風下の人を退避させる。関係者以外ならびに保護用具を着用していない作業員の入室を禁じる。漏出した物質に触れたり、その上を歩いたりしてはならない。

環境に対する注意事項

漏出した物質や流去水の拡散、および土壌、水路、排水溝下水道との接触を回避する。製品が環境汚染(排水、水路、土壌または大気)を起したときは、関係する行政当局に報告する。水質汚染物質である。大量に放出されると環境に対して有害である可能性がある。漏出物を回収すること。

封じ込め、浄化の方法及び機材

水で希釈してぬぐい取る。または、ウエス、紙、乾燥砂、土、おがくず等に吸収させ、適切な廃棄物処理容器に入れる。許可を受けた廃棄物処理業者に依頼して処分する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

出来るだけ皮膚および眼などに付けないようにすること。
必要に応じて局所排気装置を使用すること。

安全取扱注意事項

適切な個人保護具を使用すること(セクション8を参照)。
眼、皮膚および衣類に触れないようにする。環境への放出を避けること。換気が十分な場所でのみ使用する。

保管

- 安全な保管条件** 直射日光を避け、飲食物から離して保管する。容器を密閉して冷暗所に保管する。使用直前まで、容器は固く閉め封印して保管する。いったん開けた容器は入念に再密閉し、漏出を防ぐため直立させて保管する。ラベルのない容器に保管してはならない。
- 安全な容器包装材料** ガラス、ポリプロピレン、ポリエチレンなど
- 混触禁止物質** 強酸化剤、過酸化物

8. ばく露防止及び保護措置

許容濃度(ばく露限界値、生物学的指標)

一般名	ばく露限界値
含銅アゾ染料	日本産業衛生学会 (日本、9/2021)。[銅と銅化合物] 皮膚感作物質。

設備対策

換気が十分な場所でのみ使用する。必要に応じて局所排気装置を使用する。

保護具

- 手の保護具** 保護手袋を着用することが望ましい。
- 眼の保護具** 眼に入る恐れがある場合、保護眼鏡や耐化学物質飛沫よけゴーグルを着用する。
- 呼吸用保護具** 必要に応じて適切なマスクを着用すること。
- 皮膚及び身体の保護具** 必要に応じて適切な保護衣や保護長靴を着用すること。

適切な衛生対策

使用時には飲食、喫煙をしないこと。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態	液体
色	青
臭い	殆ど無臭
融点／凝固点	約 0℃
沸点又は初留点及び沸騰範囲	約 100℃
可燃性	データなし
爆発下限及び爆発上限界／可燃限界	データなし
引火点	データなし
自然発火点	データなし
分解温度	データなし
pH	データなし
動粘性率	データなし
溶解度	水に可溶
n-オクタール/水分配係数 (log 値)	該当しない
蒸気圧	データなし
密度及び／又は相対密度	データなし
相対ガス密度	データなし
粒子特性	該当しない

10. 安定性及び反応性

化学的安定性	推奨保管条件下で安定である。
反応性	情報なし。通常取り扱い条件下では安定である。
危険有害反応可能性	通常の保管および使用条件下ではなし。
避けるべき条件	高温、加熱、熱源、裸火、直射日光
混触危険物質	強酸化剤、酸化物。
危険有害な分解生成物	通常の保管及び使用条件下では、危険な分解生成物は生成されない。 製品が燃焼した場合、有害ガスが発生する可能性がある。

11. 有害性情報

製品の有害性情報

急性毒性	経口LD50:	情報なし
	経皮LD50:	情報なし
	吸入LC50:	情報なし

皮膚腐食性／刺激性

眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	情報なし
呼吸器感作性又は皮膚感作性	情報なし
生殖細胞変異原性	情報なし
発がん性	情報なし
生殖毒性	情報なし
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	情報なし
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	情報なし
誤えん有害性	情報なし

12. 環境影響情報

製品の環境影響情報

生態毒性(含銅アゾ染料として)

[急性]	水生植物(Lemna minor) EC50:1100 µg/l (真水) 4日
	ミジンコ類(Daphnia longispina 幼若体) EC50:2.1 µg/L (真水) 48時間
	藻類(Chlorella pyrenoidosa 指数増殖期) IC50:16 µg/L (真水) 72時間
	水生植物(Plantae 指数増殖期) IC50:5.4 mg/L (海水) 72時間
	甲殻類(Amphipoda 成体) LC50:0.072 µg/L (海水) 48時間
	魚類(Periophthalmus waltoni 成体) LC50:7.56 µg/L (海水) 96時間
[慢性]	藻類(Nitzschia closterium 指数増殖期) NOEC:2.5 µg/L (海水) 72時間
	水生植物(Ceratophyllum demersum) NOEC:7 mg/L (真水) 3日
	甲殻類(Cambarus bartonii 成熟) NOEC:0.02 mg/L 真水 21日
	ミジンコ類(Daphnia magna) NOEC:2 µg/L 真水 21日
	魚類(Oreochromis niloticus 幼若体) NOEC:0.8 µg/L 真水 6週

残留性・分解性	情報なし
生体蓄積性	情報なし
土壌中の移動性	情報なし
オゾン層への有害性	情報なし

その他環境情報なし

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物

廃棄物の発生は避けるか、あるいは可能な限り少なくする必要がある。漏出した物質や流去水の拡散、および土壌、水路、排水溝下水道との接触を回避する。廃棄は地域、国、現地の適切な法律、規制に則る必要がある。余剰またはリサイクルできない製品は許可を受けた廃棄物処理業者に依頼して処理する。

汚染容器及び包装

地域、国、現地の適切な法律、規制に則って廃棄する。

14. 輸送上の注意

ADR/RID(陸上)	規制されていない。	
	国連番号	-
	品名	-
	国連分類	-
	副次危険性	-
	容器等級	-
	ERG コード	-
	海洋汚染物質	非該当
IMDG(海上)	規制されていない。	
	国連番号	-
	品名	-
	国連分類	-
	副次危険性	-
	容器等級	-
	EmS 番号	-
	海洋汚染物質	非該当
IATA(航空)	規制されていない。	
	国連番号	-
	品名	-
	国連分類	-
	副次危険性	-
	容器等級	-
		環境有害物質

15. 適用法令

国内法令

消防法	非該当
毒物及び劇物取締法	非該当
労働安全衛生法	名称等を通知すべき危険物及び有害物 (銅及びその化合物)
海洋汚染防止法	非該当
PRTR法	非該当
化審法	含銅アゾ染料(0.6%) 優先評価化学物質
大気汚染防止法	有害大気汚染物質に該当する可能性がある物質 (中央環境審議会第9次答申)(銅及びその化合物)
水質汚濁防止法	政令第3条の3第53号指定物質 (銅及びその化合物)

16. その他の情報

参考文献

参考資料 1 株式会社堀場アドバンステクノ 安全データシート UV 計校正液 H (UV700G) VIS:0.590
00955 JP

免責事項

本 SDS は JIS Z 7253:2019 に準拠し、作成時における入手可能な製品情報、有害性情報に基づいて作成しております。すべての情報を網羅しているものではありませんので、新たな情報を入手した場合には追加または訂正されることがあります。

SDS は、安全な取扱い等に関する情報提供を目的としておりますので、物性値や危険有害性情報などは製品規格書等とは異なり、いかなる保証をなすものではありません。全ての製品にはまだ知られていない危険性を有する可能性がありますので取扱いには十分ご注意ください。

注意事項等は、UV 計の標準液としての使用用途のみを対象とした内容になります。

以上